

水はいのち

日新小学校 一年 岡部 里津

わたしは、まい日がっこうであそこのマラソンをしていきます。そのあとに水どうの水をのむと、^あ「はあ」ときもちよくなります。日本ではじゃ口をまわすと水がじゃーとでてくるけど、それがあたりまえじゃないことがわかりました。なんでそのことがわかったかかというと、いえにある「みずをくむプリンセス」という本をよんだからです。アフリカで

はおうちに水どうがない人がいます。とおくに水をくみにいかないと水がのめません。どろがまじった水のものもいます。わたしは本をよんでそれをしってかわいそうだなともいました。

水を大せつにつかうにはどうすればいいのかなとかんがえてみました。手をあらうときにじゃ口をやさしくひねって水のりょうをへらすようにしたいです。手をあらうときにせけんをつけてから水をだすのが、さいしょ

から水をだすのかでつかう水のりょうがちがうとおもいます。じぶんは、水をいっぱいださないようにしていたけれど、みんなが水をだしすぎていたので、そのことがきになっていました。だけどすこしはずついてまわりのおともだちにつたえることができませんでした。一年生になったので、まずはとなりで手をあらっている子に「水をだしすぎないでね」と、いつてみたいです。

わたしのおばあちゃんは、雨の日にバケツをそとにおいて、そこにたまったあま水を花の水やりにつかっています。おばあちゃんは、それをあたりにまえるようにやっています。雨の日にバケツをおくというめんどくさいことを水のせつやくのためにやっています。それを見てわたしのいえでもそれをやるようになりしました。雨の日にバケツをだすのは、おねえちゃんのしごとでしたが、わたしもやるようにしたいです。

アフリカの人の中には、おうちに水^づうが
ない人がいます。水^づうがなく、水^づが出なく
てこま^こっている人に、せつやくした水^づをあ^あげ
たいです。本^{ほん}とうにあ^あげること^{こと}はでき^{でき}ないけ
ど、水^づをたいせつ^{たいせつ}にしてせつやくすれば、そ
ういう水^づにこま^こった人にも水^づをあ^あげられるよ
うになるかもしれ^しません。そんなことをかん
が^{かん}えて、わたしは水^づをたいせつ^{たいせつ}にしたいとお
もいます。